



# 【 平成28年度 審判員の目標 】

(公財) 日本ハンドボール協会審判委員会  
日本ハンドボール協会指導委員会

## 1 正しいステップの評価と判定 (競技規則 7:3(a)～(d))

ゲームがスピードアップされ、身体接触を含む1対1の局面がより厳しくなり、ボールを使ったテクニックやフェイントのテクニックが発達した。

レフェリーは「感覚」のみに頼ることなく、プレーヤーの技術を正確に見極め、正しく判定することができるように絶えず研修と分析を行うこと。

### ①ステップを判断するための重要な2つの基準

- プレーヤーがボールをキャッチしたり、つかんだりした瞬間を正しく観察する
- キャッチした後、床への着地をどのようにしたのかを正しく観察する

### ②ドリブルが終了した後の1歩は、例外なく「1歩」と数える

## 2 ハードプレーとラフプレーの見極め (競技規則 8:1～3)

競技規則第8条「相手に対する動作」は攻撃側、防御側の双方にあてはまる。レフェリーは身体接触の際、攻撃側プレーヤーと防御側プレーヤーの位置関係はどうであったのかを正しく見極めなければならない。

①防御側プレーヤーが攻撃側プレーヤーの正面に位置し、攻撃側プレーヤーの安全面を守ることが前提であれば、接触の度合いが強かったとしても、これはハードなプレーとして認めるべきである。これは、防御側プレーヤーが攻撃側プレーヤーの正面を維持しながらついていく場合も含まれる。

②たとえ正面であっても、空中でパスやシュート中、またはその後の選手を突き放すような行為は、ラフプレーであり、許されない。

③横や後ろからボールを対象とせず、不利な位置から接触を試みたならば、競技規則8の2、8の3の判断基準をもとにラフプレーとして判定しなければならない。

### <研修課題>

- スポーツマンシップに反する行為については毅然と対応する。